

J-CEF ダイアログ・スタジオ～TOKYO スタディ・スタジオ番外編～ 「“コロナ騒動の中で市民としての私”を考える」



開催日時：2020年4月19日（土）

通信媒体：Zoom

参加者数：12名（+運営メンバー5名）

メインファシリテーター：浜田 未貴さん

ファシリテーター：古野、別木、小田切、齊藤

今回のJ-CEF ダイアログ・スタジオは、コロナ対応を取り巻く社会状況への不安と不満が広がる中で、「だからこそ、語り合う場を企画したい」という、Tokyo スタディスタジオメンバーの話し合いから始まりました。その中で、今の自粛ムードの中で感じるモヤモヤ感を語り合いつつ、市民としての自分を考える企画が、浜田さんを中心に準備されました。今回はオンライン企画ということで、Zoomを使ったグループワークのリハーサル練習を小田切さんを中心に行いました。

当日の参加者は、活動地域の異なる全国の参加者12名が参加。最初はZoomの使い方の説明やチャット形式の自己紹介をしました。その後、浜田さんから企画の趣旨として、「語り合う場を設ける」「市民としての私を考える」「オンラインを通じたダイアログの可能性を探る」などの説明があり、さっそくグループワークに入っていました。

グループワークでは、前半と後半のそれぞれにテーマを設けつつ、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使って4グループに分かれて、各グループでファシリテーターと参加者による議論を行いました。

前半のグループワークのテーマは、「市民としての私に点数をつけてみる」というもの。お互いの日常を振り返りました。「家から出ないことを自分はできている」「自分の情報収集は十分なのか」「周りの人ために何ができるのか」など参加者の本音が錯綜します。総じて、自分に高得点をつける人がいないのが印象的でした。

後半のグループワークのテーマは、「今だからこそできる市民としてのアクションを考えてみる」というもの。自分自身の生活でのコロナ対策を徹底することをはじめ、家庭や職場で自分のできることをするという意見や、障がいを持っている人や情報にアクセスできない人に目を向けサポートすること、任されている立場を通してよりよい社会づくりを目指したい（良い社会とは何かを考えたい）など、様々な意見が見られていました。中には、今のような状況で、どうすれば人々の声が政治に反映できるのかを議論しているグループもありました。

計80分間のグループワークが終わった後、全体での画面に戻って、お互いの感想をチャットを使って共有しました。感想の中では、地理的な遠さゆえ、東京の企画にこれまで参加できなかった方々からも、オンラインで参加できてよかったという声を頂きました。オンライン企画の可能性を感じた瞬間でした。

今回のオンラインでの企画には、運営メンバー一同、手応えを感じています。コロナ対応に追われる社会情勢の中、オンラインで全国の方々が繋がって対話できる可能性を今後も追究していきたいと思えます。

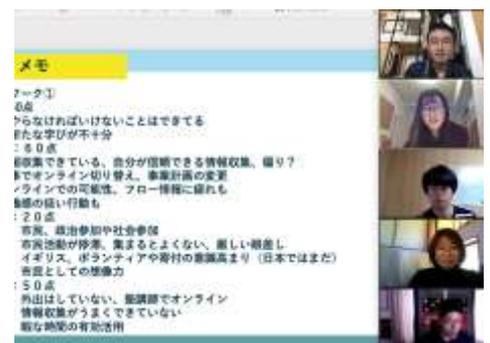
また、継続して企画を実施していきたいと思っています。ぜひ、皆様の参加をお待ちしております！！

（主な企画・運営スタッフ：浜田未貴・小田切瑞生・古野香織・別木萌果 報告担当：齊藤仁一郎）



全員で顔を合わせた

趣旨説明と自己紹介



グループでのディスカッションの一場面